

お薬手帳 正しく使えていますか？

2015年11月のメディカルコラムに引き続きお薬手帳に関するお話です。以前のコラムでは、「お薬手帳をなぜ使うのか？」を中心に書かせて頂きました。時間がある方はそちらもあわせてご覧ください。



以前に比べてお薬手帳はかなり普及してきていると日々の業務を通して感じることも多くあります。あくまで個人的な感覚ではありますが、入院した患者様の7～8割位は入院中にお薬手帳を持参して頂いております。しかし、お薬手帳は持っているけれども全ての情報がしっかりと記載されている方はあまり多くいません。今回はよく見受けられる記載漏れや間違った使い方についてです。

●よくある「記載漏れ」

最初のページの患者情報が抜けている方が非常に多いです。ここには名前、生年月日、住所、血液型、アレルギー歴、副作用歴、既往歴などを記載するスペースがあります。「名前や連絡先などはあまり必要ないんじゃないの？」と思う方も多いですが、いつ自分の身に何が起こるかはわかりません。最悪の状況も視野に置き、他の人が見たときに分かるようにしておきましょう。

アレルギー歴、副作用歴、既往歴などによっては、相性の悪い薬もあります。そのような薬を使ってしまうと命に関わる可能性もあります。そうならないためにも是非、記載するようにしてください。また、該当しない場合は空欄ではなく、「無し」と書いていただくと、記載漏れとの区別がつくため非常に助かります。

●よくある「間違った使い方」

病院や薬局ごとに手帳を分けている方がいます。これは以前のコラムにも書きましたが、お薬手帳の目的は、各医療機関でもらった薬の確認です。これがあることで、新たに処方する薬が重複投与にならないか、相互作用に問題ないかなどのチェックが初めて可能となります。ですから、お薬手帳を医療機関別に分けてしまっただけは何の意味もありません。お薬手帳は1冊にまとめるようにしましょう。



以上のような記載漏れ、間違った使い方には気をつけましょう。

お薬手帳を正しく使い、ご自身の健康を管理しましょう。